

目次	ページ
防災教育指導要領	137
防災教育年間計画（令和4年度）	138
教科等横断的な防災教育の取組について	140
1 学年	140
実践事例1 学級活動 じしんから みをまもろう（学校・通学路）	140
実践事例2 学級活動 じしんから みをまもろう（家庭）	141
2 学年	142
実践事例3 学級活動 さいがいから身を守ろう（災害の理解）	142
実践事例4 学級活動 さいがいから身を守ろう（地震からの身の守り方）	143
3 学年	144
実践事例5 総合的な学習の時間 地震から身を守ろう	144
4 学年	145
実践事例6・7 社会 自然災害からくらしを守る	145
5 学年	148
実践事例8・9 社会 自然災害を防ぐ	149
実践事例10 学級活動 台風から身を守るために	151
6 学年	152
実践事例11 理科 火山の噴火と地震	153
外部専門家の活用について	154
防災学習会 大学教授による出前講座 講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏	154
防災教育フィールドワーク 講師 下北地域県民局 地域整備部 河川砂防施設課	155
地域と連携した防災訓練について	158
地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）	165



## 1 防災教育の目標

◎自他の安全を考え自ら実践する児童の育成

- ① 災害発生時に自他の生命を守るために、平常時も含め必要な知識及び技能を身に付けさせる。  
(知識・技能、関心)
- ② 主体的に思考・判断を働かせ、状況の変化に対応して適切な行動がとれる力を育成する。  
(思考力・判断力、主体的行動)
- ③ 発達段階に応じたコミュニケーションスキルを身に付けさせ、体験活動等を通して他者や社会と適切に関わろうとする態度を身に付けさせる。(学びに向かう力・社会性)

## 2 重点的に育成すべき資質・能力

- ① 自他の生命を守るための基礎的・基本的な知識・技能
- ② 思考・判断を働かせ、適切な行動をとる力
- ③ より良く他者や社会と関わろうとする態度

## 3 各学年における防災教育の目標

		知識・技能・関心	思考力・判断力 ・主体的行動	学びに向かう力・社会性
1 学年	災害に対して継続的に関心を持つ	通学路や身近な環境の安全確保に関心を持ち、災害時にはきまりを守り、安全に行動することの大切さについて理解できる。	災害時の避難の仕方と、初期行動の仕方を知り、非常時には大人の指示に従うなどして身を守る行動をとれる。	日頃から家族や身の回りの大人と話したり交流したりすることで、有事の際には、家族や大人と連絡を取り合うことができる。
2 学年		通学路や身近な環境の安全確保に関心を持ち、災害時にはきまりを守り、安全に行動することの大切さについて理解できる。	災害時の避難の仕方と、初期行動の仕方を知り、非常時には大人の指示に従うなどして身を守る行動をとれる。	日頃から家族や身の回りの大人と話したり交流したりすることで、有事の際には、家族や大人と連絡を取り合うことができる。
3 学年		地域の地形など身近な環境に関心を持ち、様々な自然災害の危険性について知り、安全に行動することの大切さについて理解できる。	災害時の避難の仕方と、安全確保の仕方を活用し、災害発生時には大人の指示を聞きながら、状況に応じて適切な行動がとれる。	日頃から進んで家族や友達、周囲の人と関わり合うことで、有事の際には協力して助け合うことができる。
4 学年		地域社会について関心を持ち、様々な自然災害の危険性について知り、安全に行動することの大切さについて理解できる。	災害時の避難の仕方と、安全確保の仕方を活用し、災害発生時には大人の指示を聞きながら、状況に応じて適切な行動がとれる。	日頃から進んで家族や友達、周囲の人と関わり合うことで、有事の際には協力して助け合うことができる。
5 学年		地形や気象、自然環境について関心を持ち、これらが災害と関連していることを知り、自ら判断し安全に行動することの大切さを理解できる。	災害に関する情報から危険を予測し、適切な判断のもと、身を守るための主体的な行動をとることができる。	日頃から家族や友達、地域の人たちと災害に関する事で関わり合い、有事の際には周囲の人と協力して、人のために役立つ行動がとれる。
6 学年		災害のメカニズムについて関心を持ち、これらについて調べ、理解し、自ら判断し安全に行動することの大切さを理解できる。	災害に関する情報から危険を予測し、適切な判断のもと、周囲に気を配りながら身を守るための主体的な行動をとることができる。	日頃から家族や友達、地域の人たちと災害に関する事で関わり合い、有事の際には周囲の人と助け合うとともに、人のために役立つ行動がとれる。

## 防災教育年間計画（令和4年度）

### 目標 「自他の安全を考え自ら実践する児童の育成」

- (1) 災害発生時に自他の生命を守るために、平常時も含め必要な知識及び技能を身に付けさせる。
- (2) 主体的に思考・判断を働かせ、状況の変化に対応して適切な行動がとれる力を育成する。
- (3) 発達段階に応じたコミュニケーションスキルを身に付けさせ、体験活動等を通して他者や社会と適切に関わろうとする態度を身に付けさせる。

※教科体育においては、全学年を通じて約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

★……学校行事 ◆……児童会行事

月	防災教育関連行事	教科
4	避難訓練① 小中合同・地震火災 4月20日(水)	1年生活「がっこうだいすき」
5		4年社会「水はどこから」 5年家庭「おいしい楽しい調理の力」 6年社会「震災復興の願いを実現する政治」 家庭「朝食から健康な1日の生活を」
6		1年生活「なつがやってきた」 2年生活「どきどきわくわくまち探検」 4年社会「ごみの処理と利用」理科「雨水の流れ」 5年体育「ボール運動」 6年家庭「夏をすずしくさわやかに」
7		5年理科「台風の接近」 全学年体育「水遊び・水泳運動」
8	防災教育① 土砂災害Ⅰ 8月26日(金)	
9		4年社会「自然災害からくらしを守る」
10	避難訓練② 小中合同防災訓練 10月4日(火)	2年生活「みんなで使うまちのしせつ」 5年理科「雲と天気の変化」「流れる水の働き」 「川と災害」 6年理科「火山の噴火と地震」
11	防災教育② 土砂災害Ⅱ 11月18日(金)	3年社会「火事からくらしを守る」 5年家庭「食べて元気！ごはんのみそ汁」 「物を生かして住みやすく」
12		
1	避難訓練③ 冬季における地震火災 1月27日(金)	3年社会「事件や事故からくらしを守る」 6年家庭「冬を明るく暖かく」
2		5年社会「自然災害を防ぐ」「わたしたちの生活と森林」 6年理科「人と環境」
3		5年体育「けがの防止」

月	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	1年「うまれたてのいのち」 2年「大きくなったね」 3年「赤ちゃんもごはん食べてるよね」 「もっと調べたかったから」 4年「あなたの時間に命をふきこめば」 「目覚まし時計」 5年「命」 6年「命のアサガオ」	1年「学校のきまり」 「上手なあいさつ」 3年「友達いっぱい」	3年「SDGsについて」 4年「SDGsについて」 5年「ナチュラル川内」 6年「復興の絆 ～東北を考える～」
5	1年「ゆうたのへんしん」	★合同体育祭 ◆前期児童会総会 1年「学校の行き帰り」	3年「川内発見」
6	1年「あとかたづけ」 2年「あぶないよ」	★宿泊体験学習（5年） ★修学旅行（6年） 1年「名前の呼び方」 2年「友達を増やそう」 3年「友達と仲よく」 4年「思いやりのある行動」 6年「いろいろな情報の集め方」	4年「下北ジオパーク」 6年「SDGsについて」
7	6年「カスミと携帯電話」		
8			
9	2年「るっぺどうしたの」 3年「どどん橋の出来事」 4年「本当に上手な乗り方とは」	4年「楽しいグループ活動」 6年「自分の責任をはたそう」	3年「地震から身を守ろう」 5年「SDGsについて」
10	1年「かぼちゃのつる」 3年「お父さんからの手紙」	★学校祭 ◆チャレンジ集会 3年「友達への思いやり」 4年「相手の気持ちを考えて」	
11	1年「わたしがおねえさんよ」 4年「ヒキガエルとロバ」 5年「流行おくれ」「命の種を植えたい」 6年「その思いを受け継いで」	1年「悪口をなくそう」 2年「仲良く練習」 6年「学級の間人間関係」	5年「心のバリアフリー」
12	2年「やくそく」	2年「火事になったら」	
1	2年「どうして泣いてるの」 3年「助かった命」 4年「金色の魚」 6年「自分を守る力って？」		3年「下北発見」
2	1年「休みじかん」 3年「ぼくを動かすコントローラー」	★スキー教室 ◆後期児童会総会 1年「みんな友だち」「心の鬼を退治しよう」 2年「男の子、女の子」「いやなあだな」 3年「男女仲よく」「人のいやがること」 4年「家族の協力」 6年「異性の友達」	
3	1年「ハムスターの赤ちゃん」 2年「生きているから」 4年「かわいそうなぞう」	1年「教室ありがとう」 2年「ありがとうの心」 3年「6年生に感謝しよう」 4年「お世話になった人に感謝」 6年「心のこもった引き継ぎを」	

# 教科等横断的な防災教育の取組について

## 教科別指導計画 1 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおもり おまもり ノート	ICT 活用
生活	1	がっこうだいすき	学校探検や通学路探検を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしようとしている。	p 8～9 p12	
生活	1	なつがやってきた	天候の変化に合わせて、身近な自然の様子が変化することに気づく。	p 5	
体育	1	水遊び・水泳運動	水辺での危険回避及びプールや海水浴場での安全を確保する行動について、正しく理解する。		
学活	2	じしんから みをまもろう (学校・通学路) ※実践事例 1	地震からの身の守り方	p 8～9 p12	・実物投影機
学活	3	じしんから みをまもろう (家庭) ※実践事例 2	地震からの身の守り方	p10～11 p22～23	・実物投影機 ・タブレット 端末

## 実践事例 1 学級活動指導案

学 年	1 年
題材名	じしんから みをまもろう (学校・通学路) 学級活動 (2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
本時の目標	学校で、地震が起こったときの正しい行動について考える
防災の視点	地震からの身の守り方
あおもりおまもり ノートの活用	p 8～9、12
ICTの活用	実物投影機

### 本時の展開

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 教室にいる時に地震が起こった時の正しい行動について考える。 ・絵を見て、自分の身を守るための正しい行動をとっている人を○で囲み、そうでない人には×をつけ、理由を発表し合う。 ・教室にあるものについて3つの観点でチェックする。	・資料をもとに、実際の教室でどんなことが起きるか考えさせる。 ・身を守るための行動であることを押さえる。 ・落ちてくるもの、倒れてくるもの、動いてくるものがあることを押さえる。	・あおもりおまもり ノート p 8
2 地震の時、校地内の様々な場所での正しい行動について話し合う。 ・廊下や階段では、どのような危険があるかを話し合う。 ・廊下や階段での正しい行動2つに○をつけ、理由を発表し合う。	・自分たちの学校の廊下や階段について考えさせる。 ・絵と文を対応させ、イメージさせてから、○をつけさせる。 ・揺れている間は、階段を「急いで・走る」などは間違った行動であることを押さえる。	・あおもりおまもり ノート p 9

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭での正しい行動2つに○をつけ、理由を発表し合う。</li> </ul>		
<p>3 地震の時、通学路での危険について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵を見て、危険なことを発表する。</li> <li>自分たちの通学路にある危険なことについて、3つの観点でチェックする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに、通学路での危険について考えさせる。</li> <li>3つの観点のものがあることを確認する。</li> <li>登下校時の避難の仕方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①頭を守る</li> <li>②危険から離れる</li> <li>③頭上に何も無いところへ逃げる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおりおまもりノート p12</li> </ul>

## 実践事例2 学級活動指導案

学 年	1年
題材名	じしんから みをまもろう (家庭) 学級活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
本時の目標	地震が起こったときの正しい行動について考える
防災の視点	地震からの身の守り方
あおりおまもりノートの活用	p10～11、22～23
ICTの活用	実物投影機、タブレット端末

### 本時の展開

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 YouTube を視聴する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の揺れを想起させ、身を守るための学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「震度5強と震度7を体験 さいたま市防災センター」(YouTube)</li> </ul>
<p>2 大地震が起きたらどうする 家にいる時に地震が起こった時の正しい行動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リビングやキッチンの絵を見て、自分の身を守るための正しい行動をとっている人を○で囲み、そうでない人には×をつけ、理由を発表し合う。</li> <li>自分の家にあるものについて3つの観点のものを発表する。</li> <li>トイレの絵を見て、正しいもの2つに○をつけて、理由を発表する。</li> <li>お風呂の絵を見て、正しいもの2つに○をつけて、理由を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに、自分の家でどんなことが起きるか考えさせる。</li> <li>身を守るための行動であることを押さえる。</li> <li>落ちてくるもの、倒れてくるもの、動いてくるものがあることを押さえ、3つの観点で分類する。</li> <li>ワークシートでチェックする。</li> <li>自分の身を優先して守ることを押さえる。</li> <li>頭を守り、風呂から出ることを押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおりおまもりノート p10</li> </ul>
3 地震がおさまって、避難する前にすべき順番を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険が迫っているときは、そのまますぐに避難することも確認する。</li> <li>非常時持ち出し袋について触れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務省消防庁刊行物 データベース 地震などの災害に備えて - 防災グッズの紹介</li> </ul>
4 東日本大震災について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに、命を守るために日頃から備えをしておくことの大切さを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおりおまもりノート p22～23</li> </ul>

## 教科別指導計画 2 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおりおまもりノート	ICT 活用
生活	1	どきどきわくわくまち探検	地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活しようとしていたりしている。	p6	
体育	1	水遊び・水泳運動	水辺での危険回避及びプールや海水浴場での安全を確保する行動について、正しく理解する。		
生活	2	みんなで使うまちのしせつ	公共物や公共施設の利用を通して、公共物や公共施設を大切にし、正しく安全に利用しようとしている。	p20	
学活	1	さいがいから身を守ろう※実践事例3	災害の理解	p3～7	
学活	2	さいがいから身を守ろう※実践事例4	地震からの身の守り方	p10～11 p8～9,12	

### 実践事例3 学級活動指導案

学 年	2年
題材名	さいがいから身を守ろう 学級活動(2)ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
本時の目標	青森県で起こるかもしれない災害について理解させる。
防災の視点	災害の理解
あおりおまもりノートの活用	p3～7
ICTの活用	「あおりおまもりノート PowerPoint 版」と防災教育素材集をテレビに映す

#### 本時の展開

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 知っている災害について発表しあう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が経験した災害だけでなく、家族から聞いた話や、ニュース番組などで取り上げられた話題にも目を向けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおりおまもりノート p3</li> </ul>
2 青森県で起こりうる災害について知り、どんな被害が起こるか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森県で発生する可能性のある災害について整理する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>地震</li> <li>大雨、台風、土砂災害</li> <li>大雪、暴風雪</li> <li>火山噴火</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおりおまもりノート p4～7</li> <li>防災教育素材集                             <ul style="list-style-type: none"> <li>地震災害被害映像</li> <li>雪害被害映像</li> </ul> </li> </ul>

## 実践事例 4 学級活動指導案

学 年	2年
題材名	さいがいから身を守ろう 学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
本時の目標	地震が起こったときの正しい行動について考える
防災の視点	地震からの身の守り方
あおりおまもり ノート の活用	p8～9、12（復習として）、p10～11
ICTの活用	「あおりおまもりノート PowerPoint 版」と防災教育素材集をテレビに映す

### 本時の展開

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 教室や校内にいる時に地震が起こった時の正しい行動について思い出す。	・資料をもとに、昨年度学習したことの復習をして、正しい行動を確認する。	・あおりおまもりノート p8～9、12
2 家にいる時に地震が起こった時の正しい行動について考える。	・資料をもとに、自分の家でどんなことが起きるか考えさせる。	・あおりおまもりノート p10～11 ・防災教育素材集 ・地震災害被害映像

## 教科別指導計画 3学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおりおまもりノート	ICT活用
社会	2	火事からくらしを守る	火事から地域の人々の安全を守る働きについて、消防署などの関係機関は相互に連携して緊急時の対処ができる体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解する。		
体育	1	水遊び・水泳運動	水辺での危険回避及びプールや海水浴場での安全を確保する行動について、正しく理解する。		
社会	3	事件や事故からくらしを守る	事件や事故から地域の人々の安全を守る働きについて、警察署などの関係機関は相互に連携して緊急時の対処ができる体制をとっていることや、地域の人々と協力して事故の防止に努めていることを理解する。		
総合	2	地震から身を守ろう※実践事例5	地震からの身の守り方	p8~11	

### 実践事例5 学習指導案

学 年	3年	
教科名	総合的な学習の時間	
単元名	地震から身を守ろう	
指導計画 (全6時間)	1	地震から身を守るにはどうすればよいか調べる計画を立てよう (本時)
	2	探究活動
	3	川内で津波が来るところを調べよう
	4	探究活動
	5	自分の家の近くの津波の時の避難所を調べよう
	6	調べた結果について発表し合おう
本時の目標	地震から身を守るためにどうすればよいか調べる計画を立てる	
防災の視点	地震からの身の守り方	
あおりおまもりノートの活用	あおりおまもりノート p8~11	
ICTの活用	タブレット端末 (むつ市ハザードマップ)	

#### 本時の展開 (1/6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 地震の時のように身を守ればよいか話し合う。	・地震の時にどこにいるかで、身の守り方が異なることを押さえる。	・あおりおまもりノート p8~11
2 自分で調べたい地震の時の身の守り方について、調べる見通しを持つ。	・教室の中・外に焦点を絞り、調べたいことを決めさせる。	
3 探究活動	・あおりおまもりノートやインターネットで調べた情報をワークシートに書かせる。	

## 教科別指導計画 4 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおりおもりのノート	ICT 活用
社会	1	水はどこから	水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることを理解する。		
社会	1	ごみの処理と利用	廃棄物を処理する事業は、安全な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。		
体育	1	水遊び・水泳運動	水辺での危険回避及びプールや海水浴場での安全を確保する行動について、正しく理解する。		
社会	2	自然災害からくらしを守る ※実践事例 6・7	自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して探究活動を行い、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解する。	p28～31 p32	

### 実践事例 6 学習指導案

学 年	4 年			
教科名	社会			
単元名	自然災害からくらしを守る			
指導計画 (全 10 時間)	1	県内のさまざまな自然災害	6	市の取り組み
	2	地震が起きたら (本時)	7	市と住民の協力
	3	地震とわたしたちのくらし	8	住民どうしの協力
	4	家庭でそなえているもの	9	地震からくらしを守る取り組みをまとめる
	5	学校や通学路で備えているもの	10	ひなん所シミュレーション
本時の目標	写真や映像、インタビューなどを通して、地震によって引き起こされる被害について理解し、被害を受けた人々の思いを自分事として関心を持つことができる。			
防災の視点	地震によって引き起こされる被害について理解する。 被害を受けた人々の思いや自分が被害にあった場合の気持ちについて考える。			
あおりおもりのノートの活用	p 28 ～ 31			
ICTの活用	・テレビ・タブレット端末 NHK for School「地震(じしん)の多い国 日本」			

#### 本時の展開 (2 / 10)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             地震によって、わたしたちのくらしはどのように変わってしまうのだろうか。           </div>		

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
2 青森県の地震災害の概要を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大小合わせ震度1以上の地震が昨年何件発生したかを予想させる。</li> <li>・青森県は他の都道府県と比べて地震が多いことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象庁震度データベース</li> <li>・NHK for School「地震(じしん)の多い国日本」</li> <li>・インタビュー用紙</li> </ul>
3 地震によって引き起こされる被害について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や動画、家族にインタビューしたことなどから地震による被害を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー用紙</li> <li>・あおりおまもりノート p28～31</li> </ul>
4 被害を受けた人の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族にインタビューしたことやあおりおまもりノートをもとに、被害にあった人の思いを考えさせる。</li> </ul>	
5 自分が地震の被害を受けた場合どのような気持ちになるかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた意見をグループで共有する。</li> </ul>	
6 まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           地震が起きると建物がこわれたり、電気が使えなくなったりして、生活ができなくなってしまう。         </div>		
7 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りを書かせる。</li> </ul>	

## 実践事例7 学習指導案

学 年	4年			
教科名	社会			
単元名	自然災害からくらしを守る			
指導計画 (全10時間)	1	県内のさまざまな自然災害	6	市の取り組み
	2	地震が起きたら	7	市と住民の協力
	3	地震とわたしたちのくらし	8	住民どうしの協力
	4	家庭でそなえているもの(本時)	9	地震からくらしを守る取り組みをまとめる
	5	学校や通学路で備えているもの	10	ひなん所シミュレーション
本時の目標	地震からくらしを守るためにはどのような備えが必要であるかを考え、家庭でできる準備や対策について理解することができる。			
防災の視点	地震からくらしを守るために家庭でできる準備や対策について理解する。			
あおりおまもりノートの活用	p32			
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ</li> <li>・タブレット端末</li> </ul> NHK for School「ドスルコスル～どうする？大災害が起きたら～」scene04			

本時の展開（4 / 10）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 避難生活の様子を動画で見る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK for school「ドスルコスル～どうする？大災害が起きたら～」scene04</li> </ul>
2 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             地震からくらしを守るために、家庭ではどのような取り組みができるだろうか。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭でできる取組には、自分でできる取組も含んでいることを押さえる。</li> </ul>	
3 見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で予想した避難用リュックに必要なものを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リュック</li> <li>・児童が予想した必要なもの</li> </ul>
4 非常用リュックを作ってみる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が予想したものを実際に準備し、グループで避難用リュックを作らせる。</li> <li>・前時で児童が予想したもののみを提示し、実際に詰めさせる。</li> </ul>	
5 自分たちが予想したものを好き勝手に入れるとうまくいかないことを確かめ、本当に災害が起きたときに何が必要かを考え、改めて非常用リュックを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えには無かったが、むつ市の防災マップやおもりおまもりノートに載っている準備品を追加で渡す。</li> <li>・ホワイトボードに持って行くものが書かれたマグネットを貼らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追加で配布する準備品</li> <li>・おもりおまもりノート p32</li> </ul>
6 グループごとに選んだものを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要最低限なものはあるが、準備物に正解不正解はなく、それぞれの生活様式に合わせる大切であることをおさえる。</li> </ul>	
7 非常用リュック以外の準備や対策について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に家庭でインタビューしてきたことを発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー用紙</li> </ul>
8 出された意見を事前の準備と事後の対策に分ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震からくらしを守るためには事前の準備と事後の対策の両方が大切であることを確認する。</li> </ul>	
9 まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             地震からくらしを守るために家庭では、避難用リュックを用意するなどの起きる前の準備や危険な場所に近づかないなどの起きた後の対策をすることができる。           </div>		
10 自分の家庭でもできる準備や対策を考える。		
11 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りを書かせる。</li> </ul>	

## 教科別指導計画 5 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおり おまもり ノート	ICT 活用
家庭	1	おいしい楽しい調理の力	安全と衛生に気を付けながら、調理実習を通じて食品や調理器具等の基本的な扱いを習得し、災害時に役立てようとする。		
体育	1	ボール運動 (ベースボール型)	一定回数の攻守を規則的に交替しながら、相手チームとの得点の競い合いを課題としたゲームを通じて、ルールに沿って秩序よく行動するよさを身に付けさせ、災害時に役立てようとする。		
理科	1	台風の接近	台風の接近に伴う気象災害について理解する。	p16～19	
体育	1	水遊び・水泳運動	水辺での危険回避及びプールや海水浴場での安全を確保する行動について、正しく理解する。		
理科	2	雲と天気の変化	天気の変化に伴う気象災害について理解する。		
理科	2	流れる水の働き 川と災害	流れる水の働きと土地の変化について理解し、川の水が増えるとどのような災害が起こるか考え、災害を防ぐためにどのような工夫がされているか調べる。	p22～23	
家庭	2	食べて元気！ ごはんのみそ汁	安全と衛生に気を付けながら、調理実習を通じて食品や調理器具等の基本的な扱いを習得し、災害時に役立てようとする。		
家庭	2	物を生かして 住みやすく	健康・快適・安全などの視点から住まいの環境について考え、災害時の持ち出し袋や避難所生活について考える。	p26～27 p32	
社会	3	自然災害を防ぐ ※実践事例 8・9	国土の自然災害の状況をとらえ、自然条件との関連を考え、自然災害から国土を守るために国や県が様々な対策や事業を進めていることを理解する。	p 4 p22～23	
社会	3	わたしたちの 生活と森林	森林資源が果たす役割を考え、国土の保全と関連づけて考えることができる。	p20～21	
体育	3	けがの防止	けがをしたときには、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの大人に知らせることが大切であることを理解し、災害時に役立てようとする。		
学活	1	台風から身を守るために ※実践事例 10	大雨や台風からの身の守り方	p16～17	

## 実践事例8 学習指導案

学 年	5年	
教科名	社会	
単元名	自然災害を防ぐ ～地震災害への取り組み～	
指導計画 (全6時間)	1	自然災害が多い日本の領土
	2	地震災害への取り組み (本時)
	3	津波災害への取り組み
	4	風水害への取り組み
	5	火山の噴火や大雪への取り組み
	6	まとめる
本時の目標	地震が起こる場所や地震の被害を減らす取り組みについて調べ、日本の国土は地震が起こりやすい場所にあり国や都道府県が対策をしていることを理解する。	
防災の視点	国土の自然災害の状況をとらえ、自然条件との関連を考え、自然災害から国土を守るために国や県が様々な対策や事業を進めていることを理解する。	
あおもりおまもり ノートの活用	p4 (青森県で地震を起こす可能性のある場所の確認)	

### 本時の展開 (2 / 6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 地震がどのようなしくみで起こるのか考える。	・地震が断層で発生するしくみについて確認する。	・教科書 p104 ・教科書 p104 ①②の写真資料
2 学習課題を確認する。 ・地震はどのような所で起こり、被害を減らすためにどんな取り組みが行われているのだろうか。	・場所と取り組みについて見通しを持たせる。	
3 調べる。		・教科書 p105 ④～⑦の写真資料
4 話し合う。		
5 まとめる。 ・地震は複数のプレートが会う場所や、内陸の断層で起こる。国は、事前の予報や対応について検討している。		
6 青森県で地震の起こる可能性のある場所について確かめる。	・日本海、太平洋、内陸の震源が予想される場所を確認する。	・あおもりおまもり ノート p4

## 実践事例9 学習指導案

学 年	5年	
教科名	社会	
単元名	自然災害を防ぐ ～地震災害への取り組み～	
指導計画 (全6時間)	1	自然災害が多い日本の領土
	2	地震災害への取り組み
	3	津波災害への取り組み
	4	風水害への取り組み(本時)
	5	火山の噴火や大雪への取り組み
	6	まとめる
本時の目標	風水害の発生条件や被害を減らす取り組みについて調べ、日本は風水害が起こりやすい環境であり国や都道府県が対策をしていることを理解する。	
防災の視点	国土の自然災害の状況をとらえ、自然条件との関連を考え、自然災害から国土を守るために国や県が様々な対策や事業を進めていることを理解する。	
あおりおまもり ノートの活用	p22～23(避難情報ととるべき行動の確認)	

### 本時の展開(4/6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 土砂災害が起きる前触れについて考える。	・既習や生活体験から、自由に話し合わせる。	・教科書 p108 ③ ・教科書 p108 ①② の写真資料
2 学習課題を確認する。 ・風水害はどのようなときに起こり、被害を減らすためにどのような取り組みが行われているのか。	・取組について見通しを持たせる。	
3 調べる。		・教科書 p105 ④～⑦の写真資料
4 話し合う。		
5 まとめる。 ・国や都道府県は被害を少なくするために警戒レベルやハザードマップ等の準備をしている。		
6 避難情報・警戒レベルを確認する。	・それぞれのレベルでの正しい行動について確かめる。	・あおりおまもり ノート p22～23

## 実践事例 10 学級活動指導案

学 年	5年	
題材名	防災教育 台風から身を守るために	
指導計画 (全2時間)	1	台風から考えられる被害と身を守るための対策 (本時)
	2	台風が来たとき自分が住んでいる地域の危険なところ
本時の目標	大雨や台風、洪水が起きた時にどのような行動をとるべきなのか「あおりおまもりノート」や動画から自分ごととして考える。	
防災の視点	大雨や台風からの身の守り方	
あおりおまもり ノートの活用	p16～17 ・台風が近づいてきたときや雨や風が強くなったときのとるべき行動について考える。 ・絵から危険な箇所を見つけていく。	
ICTの活用	NHK for school「学ぼう BOSAI」 ・台風のときの雨や風の程度を動画から確認する。	

### 本時の展開

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 大雨・洪水・台風の場면을想起する。	・「大雨・洪水・台風」の言葉から児童が思い浮かべることを聞く。	
2 台風の風や雨について学び、とるべき行動について考えてノートに書き、話し合う。	・あおりおまもりノートの設問に自分の意見を書く。	・NHK for school「学ぼう BOSAI」 ・あおりおまもりノート p16
3 絵から台風が来たときに危険なところがどこを考えてノートに書き、話し合う。	・あおりおまもりノートの挿絵から危険な箇所を探し、どうして危険だと思うのか考えさせる。	・あおりおまもりノート p17

## 教科別指導計画 6 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおり おまもり ノート	ICT 活用
社会	1	震災復興の願いを実現する政治	東日本大震災への対応や復興の様子を探究する活動を通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解する。	p28～31	
家庭	1	朝食から健康な1日の生活を	安全と衛生に気を付けながら、調理実習を通じて食品や調理器具等の基本的な扱いを習得し、災害時に役立てようとする。		
家庭	1	夏をすずしくさわやかに	健康・快適・安全などの視点から夏の生活環境について考え、災害時の避難所生活について考える。	p26～27	
体育	1	水遊び・水泳運動	水辺での危険回避及びプールや海水浴場での安全を確保する行動について、正しく理解する。		
理科	3	火山の噴火と地震 ※実践事例11	火山の噴火や地震と私たちの暮らしについて考え、災害時の正しい行動について理解する。	p7 p24～25	・タブレット 端末 ・デジタル 教科書
家庭	3	冬を明るく暖かく	健康・快適・安全などの視点から冬の生活環境について考え、災害時の避難所生活について考える。	p26～27	
理科	3	人と環境	地球の活動によって人や生活が影響を受けることについて調べ、持続可能な社会をつくるために必要なことを考える。	p20～21	

## 実践事例 11 学習指導案

学 年	6年	
教科名	理科	
単元名	火山の噴火と地震	
指導計画 (全4時間)	1	火山の噴火や地震によって、大地はどのように変化するか調べる。
	2	火山の噴火や地震によって、どのような災害が起きるか調べる。
	3	火山の噴火や地震に備えるため、どのような取組が行われているか調べる。
	4	火山の噴火や地震による災害から自分たちの命を守るためには、どのようなことが必要か考える。(本時)
本時の目標	調べたことをもとに、火山の噴火や地震に備えるために必要なことを考える。	
防災の視点	火山の噴火や地震について正しい知識を身に付ける。	
あおりおまもり ノートの活用	p 7、p24～25 (避難時の基本行動)	
ICTの活用	・タブレット端末 ・指導者用デジタル教科書	

### 本時の展開 (4 / 4)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 火山の噴火や地震などの災害に対して、自分たちはどのような備えをしておくか考える。 ・避難に必要な物を準備しておく。 ・緊急地震速報やニュース速報などで避難レベルを確かめる。 ・ハザードマップから危険な場所や避難場所を確認しておく。	・前時までに学んだ火山の噴火や地震に備えるための取組をどのように活用するか考えさせる。 ・途中、気を付けなければならない物も記入する。	・教科書 p148 ・むつ市ハザードマップ (タブレットで表示) ・あおりおまもり ノート p25
2 ハザードマップを見て、家から避難場所までの地図を描く。		
3 気付いたことを話し合う。		
4 災害に対する備えについてまとめる。 ・ハザードマップや速報などの災害に対する取組を活用して、命を守る行動をとる。		

# 外部専門家の活用について

## 防災学習会

ねらい 講師の話を聞き、考えることを通して、土砂災害に関する正しい知識を身につけ、防災や災害発生時に適切に行動できる資質・能力の向上を図る。

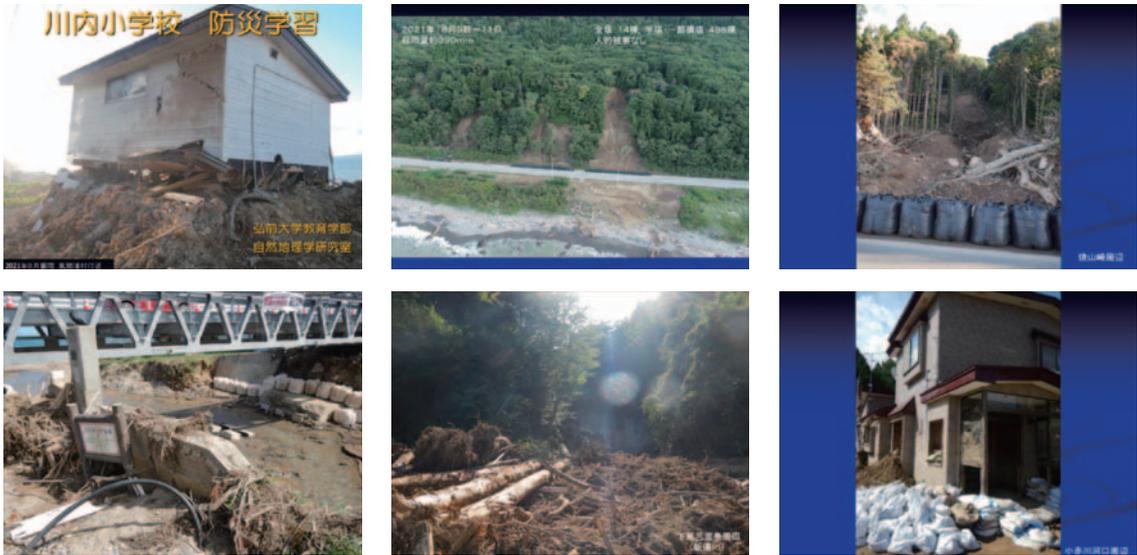
日時 令和4年8月26日(月) 10:40～11:55

場所 川内小学校アリーナ

対象 5・6学年児童 41名  
職員、保護者、地域住民(谷地町地区自主防災組織) 約30名

講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏  
弘前大学教育学部 大学生3名

内容 ○令和3年8月下北豪雨災害について



### ○土砂災害とは？



○グループワーク

- ・地図を使ったワークショップ
- ・アナグリフ（青赤メガネ）を使った地形観察 等



## 防災教育フィールドワーク

ねらい 学校周辺（脇野沢～川内）の土砂災害を防ぐための施設見学を通して、災害を予防するための青森県の取組を知るとともに自助・共助・公助の視点から命を守るための行動を考える機会とする。

期 日 令和4年11月18日（金）

参加者 5学年児童18名、6学年児童23名、引率指導者4名（教頭、教務主任、特別支援学級担当2名）

移動手段 貸切バス

講 師 下北地域県民局地域整備部河川砂防施設課 主幹 野宮 一宏 氏（他数名）

日 程 9：00 川内小学校 発  
9：25 脇野沢フェリー乗り場駐車場 ※指導者と合流  
9：45 見学先①「九艘泊（急傾斜施設）」着



10：10 見学先②「九艘泊（砂防施設）」着



10：45 見学先③「新井田区域（急傾斜施設）」着



11：15 出発

11：45 川内小学校 着

くそうどまりくいきそうごうりゅういきぼうさいじぎょう  
**1. 九艘泊区域総合流域防災事業**

○事業目的

九艘泊区域は、がけ高25m、勾配31°の急傾斜地であり、これまでの降雨により斜面に小崩落が見られ、豪雨時には大規模ながけ崩れが発生する恐れがある。

がけ崩れが発生した場合、人家10戸、消防屯所、避難路の県道九艘泊脇野沢線などに被害が及ぶ恐れがあることから、崩壊防止対策を実施した。

○事業概要

- ・保全対象：人家10戸、消防屯所、県道70m、河川140m
- ・実施内容：現場打吹付法砕工 A=4,860m<sup>2</sup>
- ・事業期間：2012～2021年度

工事前の斜面状況



工事着手前



工事完了

くそうどまりがわつうじょうさぼうじぎょう  
**2. 九艘泊川通常砂防事業**

○事業目的

九艘泊川の流域は、複数の渓流から構成されているが、その岸は侵食や斜面崩壊等が多数分布しており、川底には不安定な土砂が多量に堆積していることから、豪雨等の際には土石流が発生する危険性が高い。

土石流が発生した場合、人家34戸、むつ市指定の避難所(公民館)、県道九艘泊脇野沢線などに被害が及ぶ恐れがあるため、砂防堰堤などの対策施設を整備した。

○事業概要

- ・保全対象：人家 34戸、公民館(避難場所)、県道 130m、市道 1,330m、農地 0.90ha
- ・実施内容：砂防堰堤 5基、床固工 2基、堆積工 1基
- ・事業期間：2002～2017年度

流域の状況



3号堰堤



航空写真



にいだくいききゆうけいしやちたいさくじぎょう  
**3. 新井田区域急傾斜地対策事業**

8月3日からの大雨によるがけ崩れ（落石）状況

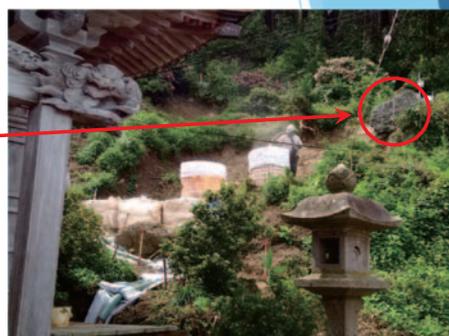


にいだくいききゆうけいしやちたいさくじぎょう（きんきゆうたいさく）  
**3. 新井田区域急傾斜地対策事業（緊急対策）**

①落下防止対策  
 不安定な転石をワイヤーで固定→撤去済み



②落石対策  
 緩衝材としての大型土のうを設置



③法面侵食防止  
 雨水が斜面に流れないように土のうを設置



④警報装置  
 転石の動きを感知し警報を鳴らす→撤去済み



# 地域と連携した防災訓練について

## 第一部 津波浸水想定訓練（小学校と中学校合同で実施）

### 〈背景〉

令和3年に県が新しい津波浸水想定を公表した結果、新たに川内小学校が津波浸水想定域内に指定されたことから、津波を想定した避難訓練を計画したものである。

### 1 ねらい

地震による大津波の発生を想定し、放送や教師の指示に従って、落ち着いた態度で安全かつ迅速に避難できるようにする。

2 日 時 令和4年10月4日（火）9：30～10：00

3 想定災害 大地震及び大津波警報発令 授業中【予告あり】

4 避難場所 川内中学校3階

### 5 実施内容【概要】

- ① 訓練開始は校内放送を活用した「緊急地震速報」の音声をもって行う。
- ② 震度6弱の地震及び停電を想定。※この時点で「大津波警報」発令確認
  - ・校内の状況確認に重点を置く。
  - ・一時避難は行わず、垂直避難を実施。
  - ・職員室教頭席及び小学校棟印刷室の電話機は停電時も使用可能であることから、小学校棟との連絡は内線を使用して行う。
- ③ 地域の方々、自主防災組織、保護者には避難者として参加してもらい、消防団の方々には垂直避難のサポートをしてもらう。
- ④ 訓練時の本部は3階ホールピアノ付近とする。
- ⑤ 小学校は火曜日2校時実際の時間割で実施する。中学校は体育館で全校集会活動を行っているという設定で実施する。
- ⑥ 学校外部機関の方々には評価者として参加する。原則自由に動いて参観していただく。
- ⑦ 子ども達には事前に避難中に気付いたことを訓練後話し合うことも予告しておく。

### 6 時程及び内容（職員の動き）

9：20 自主防災組織、消防団、地域の方々、保護者 集合

9：33 ① 緊急地震速報

【総括教頭】校内放送①

「訓練、訓練、緊急地震速報です。強いゆれに備えて机の下にかくれ、頭部をかくして身を守りなさい。」

② 地震発生想定

【全職員】戸を開け、安全確保

【総括教頭】校内放送②

「訓練、訓練、強い地震です。机にかくれたまま、身を守りなさい。」

#### 停電の発生

9：34 ③ 地震終了

【校長】総括教頭に状況確認を指示・職員室に待機

【総括教頭】小学校棟の小：教頭に状況確認を指示

職員室から2階廊下を通過して中学校体育館へ

【小：教頭】小学校棟の状況確認を開始

【中：教頭】体育館において生徒の安全確認及び校内の状況把握を指示。



体育館掌握を教務主任に指示し、職員室へ向かう。

※総括教頭と合流後、職員室（本部）へ

#### 9:36 ④ 状況報告

【総括教頭】小学校棟、中学校棟、特別支援学級の各状況を取りまとめ

##### 大津波警報発令

【中：教頭】校長・総括教頭へ地震についての報告

「震源地は陸奥湾沖（約30km）、震度6弱、大津波警報の発令」

【総括教頭】校内の状況について校長へ報告

#### 9:38 ⑤ 避難指示

【校長】避難指示

「大津波警報の発令を受け、中学校校舎3階への垂直避難を開始します。総括教頭は直ちに全校に必要な指示を出して下さい。」

※校長は3階へ移動・本部設置

【総括】職員に指示

◆津波警報を受け、中学校棟3階への垂直避難開始

◆児童生徒玄関・多目的ホール通行不可に伴う避難経路の指示

◆避難後の各棟の確認の指示

【伝達職員】

「訓練、訓練、津波警報が発令されました。先生の指示に従い、中学校棟3階への避難行動を開始して下さい。」

【児童・生徒掌握担当】

避難経路の説明

「地震で壁や窓ガラスなど、こわれているところがあるかもしれません。足下だけでなく、頭上にも十分注意して避難しましょう。」

【地域住民・学校外参加者】

避難行動開始

避難場所	小1～3（37名）→音楽室
	小4～6（52名）→視聴覚室
	中1（23名）→中1教室
	中2（20名）→中2教室
	中3（14名）→中1集会室
	地域住民等 →中2集会室

#### 9:45 ⑥ 避難完了

【職員】小学校棟1・2階、中学校棟1・2階の確認  
持ち出し文書の確認

人員報告 学担又は授業者 → 校長

【校長】避難完了宣言、放送による講評

※児童生徒は教室へ戻る

#### 9:55 ⑦ 避難訓練の反省と評価

【児童生徒】各教室で話し合い

- ・実際に地震が起きた時に落下物などが予想される危険に気付いたか。
- ・障害物の中を実際に避難して、気付いたことはないか。
- ・校外の方々と共に訓練を実施して、気付いた問題点はないか。

10:20 話し合い終了



## 第二部 救急法体験活動について

### 1 ねらい

一次救命処置など救急法の実験を体験する活動を通して救急法に関する知識や技能を身に付け、いざという時の心構えを持つことができる。

2 日 時 令和4年10月4日(火) 10:40～

3 対 象 5・6学年  
第一部に参加した保護者、地域関係者

4 会 場 アリーナ 多目的ホール

5 講 師 日本赤十字社 救急法ボランティア指導員  
河合 要司 氏 阿部 伸義 氏 谷垣 花 氏  
青森県防災士会青森支部長  
三浦 一郎 氏



### 6 時程及び内容

10:40 開会行事、講師紹介

10:50 活動① 一次救命措置



11:20 活動① 終了のち休憩

11:25 活動② 搬送法



11:35 活動② 終了のち閉会行事

## 防災訓練の評価

◇防災訓練参加者より

(1) 児童生徒の取組

- 真剣に取り組んでおり、良好でした。
- 子ども達は相当、緊張感を持って取り組んでいるように見えた。
- 落ち着いて行動していた。
- 実災害では、教職員や子どもへの声かけも必要(助け合い)。

(2) 教職員の取組

- 学校での避難訓練は、生徒の安全を確保することからも先生方の防災への取組、役割が重要となりま

すので、今後も継続していただきたいと思います。

- 「おはしも」だけでは、災害から命を守れない視点も合わせて指導されており良かったと思う（6年）。

#### ◇検討協議会委員より

##### 【むつ市川内庁舎管理課長】

- ・子ども達が指導を真剣に聞いていてよかった。

##### 【むつ市防災安全課】

- ・先生方がいざという時にいかに避難経路等を把握するか大切だと感じた。

##### 【むつ消防署消防指令】

- ・素晴らしい内容だった。

##### 【青森県教育庁スポーツ健康課】

- ・子ども達、先生方が皆、真剣にやっていた。
- ・先生方が子ども達に安心感を与えるためには、真剣さを言動に反映しすぎないようにする配慮（言葉遣い、口調、速さなど）の仕方を職員間で共通理解を図る必要がある。
- ・教室での振り返りの場面では、「子どもたちが考えて」と指示していながら、担任から答えが示されてしまっていた。防災教育の観点から必要なのは「正解」ではなく「納得解」である。「実際の災害ではどのように行動すべきなのか？」曖昧なままで思考を巡らせ、子どもたち自ら「納得解」を見つけていくプロセスが、子どもたちの資質・能力を向上させるために重要である。
- ・地域の方々に振り返りにも参加いただいたのはありがたい。子どもたちの発表に対し、地域の方から自然と拍手が出たのは良かった。一方、今後の課題として地域に住む大人たちが防災に対してどのように考え、地域の安全を守るために行動していくかが大切なことだと思う。今日がゴールではなくスタートと捉えていただければありがたい。

##### 【川内小学校 総括教頭】

- ・防火婦人クラブから参加した方々から、「防火婦人クラブでも AED の訓練をやった方がいい。」という声が出ていた。自主防災組織も同様であった。

#### 川内小学校 考察1

総じて高評価をいただいたが、今後の課題として以下の点が挙げられた。

- ① 児童生徒が互いに協力し合える状況を取り入れ、災害発生時に「自分や仲間の命を守る」ことに係る具体的な訓練・体験をさせること。
- ② 児童生徒を「安心させる」教職員の声かけの徹底。
- ③ 児童生徒、教職員共に、状況に応じて柔軟に対応できる場面設定等の創意工夫。
- ④ 児童生徒の振り返り活動の持ち方に関する共通理解。
- ⑤ 外部機関との連携の継続・強化。

今年度で「命を守る！防災教育推進事業」は終了となるが、青森県の津波浸水想定による避難訓練は今後も必ず実施する必要があるので、以上の改善点を考慮しつつ次年度以降も「地域と連携した避難訓練」を実施する。

#### ◇児童生徒の振り返りシートから

##### 小学校

##### 【1学年】

##### ◆わかったこと・気づいたこと

- ・避難した音楽室にもたくさんの楽器があったので落ちてきたらこわいと思った。
- ・中学校の体育館は広くて窓もたくさんあるから本当に地震がきたらあぶない。
- ・津波がきたらなるべく高い所に行くことがわかった。

◆地域の方々といっしょに訓練をして、感じたこと考えたこと

- ・車いすの人は階段をのぼれないから心配になった。

◆感想

- ・こわかったけどみんながんばったからすごいと思った。
- ・窓がわれてテープをつけているところがあったから、本当に窓がわれていたら、逃げる時歩くのが大変そうだった。

【3学年】

◆わかったこと・気づいたこと

- ・本当に強い地震や津波が起きた時のために練習のうちから完璧にしたい。
- ・先生がいなくても津波が来たら3階に逃げます。
- ・歩いた途中で窓がけっこうあって、本当に窓が落ちたらどうなるのだろう？

◆感想

- ・本当にあったら誰もけがをしないように先生がいなくてもできるようにしたい。

【5学年】

◆わかったこと・気づいたこと

- ・災害によって避難する場所を変える必要がある。(Jアラート、土砂災害、津波など)
- ・大雨と地震など、複数の災害が重なることも考えられる。
- ・安全に避難するには「聞く」ことが大事。安全な避難につながる。
- ・ガラスのことを考えると、靴って大事ななと思った。

◆地域の方々といっしょに訓練をして、感じたこと考えたこと

- ・車いすの人がいたら押してあげたい。
- ・けがをしている人がいたらできることをしてあげたい。
- ・学校が避難所だったら校内のことをいろいろ教えてあげたい。

【6学年】

◆わかったこと・気づいたこと

- ・中学校と小学校の先生が「違う階段を使って。」と言っていてそれによって別の階段を使ったけど、自分たちだけだとそのままの階段を使って、待っていたと思う。
- ・混み合って待っていると、津波からの避難が間に合わないかもしれなかった。
- ・ロッカーは地震で動く可能性がある。それにより、避難しにくくなる。

◆地域の方々といっしょに訓練をして、感じたこと考えたこと

- ・消防団の人が足の不自由な人を助けていたけど、もし消防団の人がいなかったらどうしようと思った。
- ・何か自分たちでも手伝えることもあると思った。
- ・車いすの方を「追い越す」かどうか迷った。これはどうしたらいいのだろう。

【中学生】

◆地域の方々と訓練を行って、感じたことや考えたこと。

- ・地域の人たちには足が不自由で階段をのぼるのに時間がかかったり、ケガをしている人たちもいることがわかって、みんなで助け合って自分や他の人の命を守りたいと思った。
- ・自分以外に周りの人にも目を向けられるようになりたい。地域の方々より訓練は多くやっているのだから、素早い判断と行動を身に付けたい。
- ・人数が多くなるとトラブルが起きやすいということを改めて感じた。いつもより慎重に行動しないといけないと思った。

◆感想

- ・災害はいつ起こるか分からないので、マップを見る・非常用バッグを用意する等準備をしておきたい。
- ・消防団がかっこよかった。
- ・地震速報の音が怖かった。いつもの訓練よりも起きた出来事が多かったのが心配だった。
- ・第一に優先しなければならないのは自分の命だけれど、自分も他人も守ろうと思った。

- ・今回地震発生から津波避難の想定だったが、もし全ての階段が通れなかった場合どこに避難するのが気になった。
- ・実際に災害時にいろんな人が来ると階段や廊下で混雑し危ないと思った。
- ・避難中に歩けないほどのゆれが起きた場合どうすればよいのかと思った。

## 川内小学校 考察2

発達段階に応じて児童生徒が様々なことを受け止め、考えて行動できたことについては一定の評価ができる。しかし、地域の参加者や傷病・視覚障害等の役割の職員の人数や活動範囲が限定的であったことから、「地域の方々との関連で避難行動について考える」ことについては想定していたほど効果は得られなかった。一方、「命を守る！防災教育推進事業」の指定が今年度で終了することを考慮に入れた時、地域と連携した避難訓練を今後も継続したとしても、考察1で挙げた5つの改善点のうち、

- ① 児童生徒が互いに協力し合える状況を取り入れ、災害発生時に「自分や仲間の命を守る」ことに係る具体的な訓練・体験をさせること。
- ③ 児童生徒、教職員共に状況に応じて柔軟に対応できる場面設定等の創意工夫。
- ⑤ 外部機関との連携の継続・強化。

以上の3点について、1回の訓練の中で全て対応しようとするのは、無理があるのではないかと考える。校内で実施される3回の避難訓練も含めた総合的な改善を図りたい。

### ◇職員による自己評価（○：良かった点 ●：改善点）

#### ◆内容

- 障害物や窓ガラスの破損、停電といったリアルな状況を作ったことでいつもに増して緊張感が生まれていたと思う。
- せまい廊下で車いすや担架が通ろうとした時に、たちまち人が流れる速さがゆっくりになり、詰まったように感じた。3階に上がるルートはどうしても限られるし、大勢が避難するとなると途中でUターンしてルートを変えることも難しいので、いかに落ち着けるかが大切なのかを学んだ。
- 普段の避難訓練ではない「避難者」がいたことで、児童自ら考えて動くことになり、とても新鮮だった。慣れてはいけない緊張感があり、とても良かった。
- 学校内だけで行う訓練と違い、地域の高齢者の方、体の不自由な方も参加したり、障害物があったりしたことで児童自身でもどのように行動したらよいのかを考えるきっかけになったと思う。
- 津波が来る場合、地域の方も避難するので、混雑を体験したことは良かった。ただ、それほど混雑しなかったため、このくらいの人数ならまだスムーズに避難できるということはわかった。これで、避難してきた一般の人が高齢で階段を登れないなどの状況になったら、子ども達の避難完了確認次第、先生方も援助に行く必要も出てくると思った。その場合に、最初から地域の避難の援助をしている職員の情報を伝えるなど、自分の状況を人に伝えることも大切だと思った。

#### ◆体験活動（小5・6年関係者のみ）

- けがの手当・搬送では、子ども1人の力では厳しいことを知り、AEDの使い方の流れをつかみながら行うことができた。
- 救急法については初めての児童がほとんどだったので、今後役に立つ体験だったと思う。
- 説明をしっかりと聞いて、実際にやってみる段階では進んで取り組んだり、グループ内で自然に指示を出してそれに合わせて動いたりしている姿が見られた。

#### ◆その他

- 命を守るための行動を考えることができた訓練だったと思う。地域の方々がいるというだけでも、こ

の校舎でみんなが助かるにはどうしたらいいかという大切な視点が加わったはず。窓ガラスの散乱した状況なども想定できて、考えるポイントが複数あったことも良かったと思った。

- 地域の方が多数参加してくださったことから、防災への関心がうかがえた。「来年もこの訓練ありますか？」と話された方もいた。
- 実際に災害があった時は臨機応変に動くと思うが、連絡をとるためにも携帯電話を持っていることが大切なのでは？と感じた。
- 避難の時に速さを優先して2列で移動を開始したが、途中障害物で狭くなっていた所で手間取ることがあった。多少列が伸びても1列での移動の方がよさそうだと感じた。
- 以前も思ったが、屋上への行き方を全職員が確認しておいた方がよい。
- ヘルメットが必要だと思う。

### 川内小学校 考察3

大変貴重な意見が多く、そこから読み取れたのは、職員一人一人がそれぞれの立場において「現実には災害が発生した場合の状況・確認・対応」について、「より現実的に考え、行動したい」ととらえていることである。また、そのために「より充実した避難訓練」を求めていることもわかる。

よって、県からの指定の有無に関わらず、本校で年間行われている避難訓練を含め、考察2で述べたように総合的に改善していくことが必要である。年度当初の訓練については「シェイクアウト訓練及び基本避難経路確認」でよいが、その後の訓練では可能な限りの改善を取り入れたい。

## 地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）

### 協議会出席者

所 属	役 職	備 考
川内小学校	校長、教頭、防災教育担当、 P T A会長	研究指定校
川内中学校（小中併置）	教頭	研究指定校の周辺校
むつ市教育委員会学校教育課	指導主事	所管の教育委員会
むつ市 総務部防災安全課 川内庁舎管理課	主幹 主任主査	所管の防災担当部局
むつ市消防団川内消防団	団長	地域の関係者
谷地町地区会自主防災組織	会長	地域の関係者
日本赤十字社青森県支部	事業推進課長	外部専門家
青森県防災士会青森支部	支部長	外部専門家
下北教育事務所	主任指導主事、指導主事	事務局
青森県教育庁スポーツ健康課	指導主事	事務局

### 第1回検討協議会

日 時：令和4年8月5日（金）10：00～11：30

場 所：むつ市立川内小学校ミーティングルーム

内 容：今年度の取組について

- ① 校内での防災学習について（防災学習計画、内容等の確認）
- ② 外部講師による防災学習
- ③ 地域と連携した防災訓練



令和4年度「命を守る！防災教育推進事業」

## むつ市立川内小学校 今年度の取り組み

R4.8.5  
川内小防災教育担当

1. 今年度の川内小学校防災教育のテーマ  
子どもが「自分事として考える」防災学習 一体活動をもとに

### 2. 主な取組

#### (1)外部講師を依頼した防災学習

- ①小岩教授による土砂災害に関する学習【8月26日（金）・本番に向けて調整中】  
・内容詳細は別紙「第1回防災学習会 実施計画」

- ②県砂防課による土砂災害に関する学習【11月11日（金）・仮】  
・土砂災害についてのフィールドワーク  
「川内地区の危険なところ」  
「西通り地区で危険なところ」  
「R3年度下北豪雨土砂災害現場及び被災者との交流」 等

#### (2)地域と連携した防災訓練【10月4日（火）】

##### ①内容（案）

- ・津波浸水想定訓練（停電発生、垂直避難訓練）  
→昨年度行った訓練内容を丁寧に確認する。  
+中学校校舎での垂直避難が危険な場合の対応策の体験活動  
「通常使用されない2階通路を活用した、小学校棟への避難行動」
- ・日本赤十字社青森県支部を講師に迎えた体験活動
- ・自衛隊の協力を得ての体験活動  
→海上自衛隊大湊地方総監部管理部総務課に相談中。近日来校予定
- ・ワークショップ活動

##### ②地域交流の観点として

※地域の方々には訓練に実際に参加していただく。大変だった点、困った点、改善を要する点等各自の感想をもとに、来年度の訓練の見直しを図る。その後の体験活動では小学生とともに活動に参加していただく。

### 3. 開催に向けた流れ

- (1)第1回検討協議会【8月5日（金）】  
○防災学習・防災訓練についての方針説明
- (2)第2回検討協議会  
○防災訓練に関する具体的な話し合い【9月前半】
- (3)担当者最終打合せ【訓練直前】
- (4)第3回検討協議会

### 4. 検討事項

- (1)予算を活用してバスをチャーターし、フィールドワークを行うことは可能か。  
(2)小学生でも可能で効果的なワークショップの活動例を教えてください。

#### 日本赤十字社から

※避難経路について  
実際の避難では避難経路が安全か確認する作業が必要  
※地域の参加について  
高齢者は、①あきらめないで最後まで逃げること、②1人ではなく複数で支援することが大切。そのためにも搬送法の学習が重要。

#### スポーツ健康課から

国が策定した「第3次学校安全の推進に関する計画」の中でも、避難訓練が日頃の防災教育の力の発揮の場となるよう取組を充実させることが示されている。子どもたちが教員の指示を聞いて動くだけでなく、主体的に考えて判断し、行動することができる機会として避難訓練を位置付けてほしい。

「命を守る!防災教育推進事業」  
第1回防災学習会 実施計画

令和4年 8月5日  
川内小防災教育担当

- 1 ねらい  
・講師の話聞き、考えることを通して、土砂災害に関する正しい知識を身につけ、防災や災害発生時に適切に行動できる資質・能力の向上を図る。
- 2 日時 令和4年8月26日(金) 10:40～11:55
- 3 場所 川内小学校アリーナ  
講師控室はミーティングルーム
- 4 対象 5・6学年児童 41名  
職員、保護者、地域住民(谷地町地区自主防災組織) 約30名程度
- 5 講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 <sup>なおと</sup>直人 氏

6 日程及び内容

※昼休みアリーナ使用不可

- |        |  |
|--------|--|
| ～10:00 | 講師到着(畑中教頭) 校長室へ<br>校長への挨拶後、ミーティングルームへ<br>その後、会場確認、準備                         |
| 10:35  | 5・6年生入場  |
| 10:40  | 講師入場(誘導;校長)<br>開会式 進行;關教頭<br>①はじめの言葉(進行)<br>②校長先生のお話(講師紹介を含む)<br>③終わりの言葉(進行) |
| 10:45  | 講義(小岩先生)(45分程度)  |
| 11:30  | 質疑応答(5分)   |
| 11:35  | 大学生との交流(15分)<br>・大学での研究、生活についてのプレゼンテーション<br>・質問コーナー                          |
| 11:50  | 閉会式<br>①はじめの言葉(進行)<br>②感想発表(各学年1名)<br>③お礼の言葉(6年生1名)<br>④終わりの言葉(進行)<br>※記念撮影  |
| 11:55  | 講師退場(誘導;校長)<br>講師はミーティングルームへ   |
| 12:00  | 後始末(指示;渡部)<br>後始末後は、教室に戻りアンケート・感想など記入  |
| 12:20  | 講師見送り(校長、両教頭)  |

7 講義内容

- ・土砂災害の基本 ・下北豪雨土砂災害について 小岩教授の研究結果
  - ・その他、地図を活用したワークショップ形式の活動 等
- ※児童を学年それぞれの5～6人のグループで編制し、グループワークを行う。大学生は各グループを巡回しつつ指導・交流する。(大学生4名来校予定)

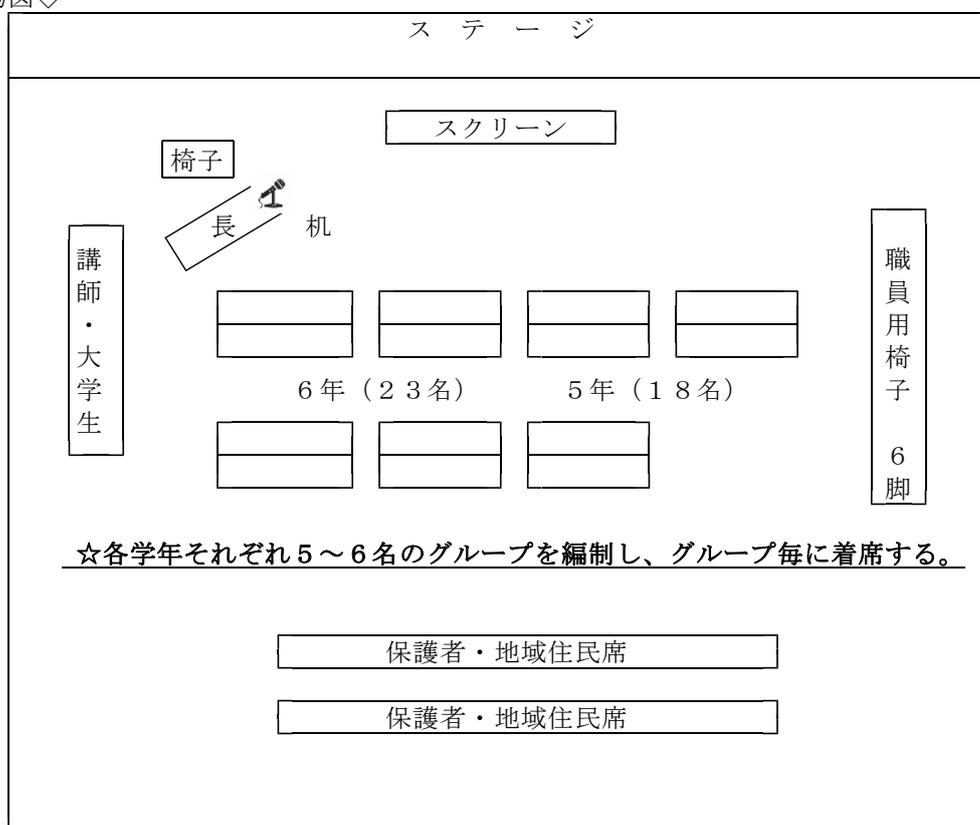
8 準備物

学校→会場用長机・イス、PC、プロジェクター、湯茶  
児童→筆記用具、ワークシート

9 その他

- ・当日は、新型コロナウイルス感染予防のため、児童はマスク着用。その他、外部からの来校者（講師も含む）にもマスクの着用、検温をお願いする。
  - ・派遣（講演依頼）依頼文書は、スポーツ健康課で作成する。
  - ・学校運営協議会（PTA会長）には学校から電話連絡をする。【關教頭】連絡済み。
  - ・5・6年保護者に案内を出す。【關教頭】参加人数把握のため、事前に希望をとる。
- ※講義の持ち方、大学生との交流については今後の小岩教授との調整や新型コロナ感染状況により変更の可能性あり。

◇会場図◇



## 第2回検討協議会

日時：令和4年9月16日（金）13：30～15：30

場所：むつ市立川内小学校ミーティングルーム

内容：地域と連携した防災訓練（10月4日）について

- ① 事前の準備
- ② 当日の動き、役割分担

### 第2回検討協議会 説明資料

令和4年度 むつ市立川内小学校

## 防災訓練実施計画（案）

R 4 . 9 . 1 5

防災教育推進事業担当

### 1. 防災訓練の全体概要

#### (1)第一部「津波浸水想定訓練」→

○小中合同で実施

#### (2)第二部「救急法体験活動」

○小5・6学年で実施

※R3年度より青森県が津波浸水想定の変更をした際、川内小・中学校校舎も浸水想定区域に該当となった。これにより、

- ・避難確保計画の作成
- ・計画に基づく避難訓練の実施が求められている。

### 2. 第一部「津波浸水想定訓練」について

#### (1)ねらい

##### 【児童生徒】

○地震による大津波の発生を想定し、放送や教師の指示に従って、落ち着いた態度で安全かつ迅速に避難できるようにする。（小中共通）

(2)日時 令和4年10月4日（火）9：30～10：00

(3)想定災害 大地震 及び 大津波警報発令 授業中【予告あり】

(4)避難場所 川内中学校3階

#### (5)実施内容【概要】

①訓練開始は校内放送を活用した「緊急地震速報」の音声をもって行う。

②震度6弱の地震及び停電を想定。※この時点で「大津波警報」発令確認

・校内の状況確認に重点を置く。

・一時避難は行わず、垂直避難を実施。

・職員室教頭席及び小学校棟印刷室の電話機は停電時も使用可能であることから、小学校棟との連絡は内線を使用して行う。

③地域の方々、自主防災組織、保護者には避難者として参加してもらい、消防団の方々には垂直避難のサポートをしてもらう。

④訓練時の本部は3階ホールピアノ付近とする。

⑤小学校は火曜日2校時実際の時間割で実施する。中学校は体育館で全校集会活動を行っているという設定で実施する。

⑥学校外部機関の方々には評価者として参加する。原則自由に動いて参観していただく。

⑦子ども達には事前に避難中に気付いたことを訓練後話し合うことも予告しておく。

